

守口市教育委員会の点検・評価に関する報告書 概要版(平成28年度対象)

平成29年12月作成



点検・評価報告書とは？

教育委員会では毎年、前年度の教育行政施策に関する点検及び評価を行い、報告書を作成しています。この報告書は、市民の皆さんに本市の教育行政を知っていただくとともに、次年度以降の教育行政に反映させることを目的に作成するものです。

※「守口市教育委員会の点検・評価に関する報告書」には、「教育委員会の取り組み内容」「評価の根拠」「今後の方向性」「図表等のデータ」「用語の意義」等詳しく掲載しており、この概要版は報告書の内容の一部を抜粋して掲載したものです。



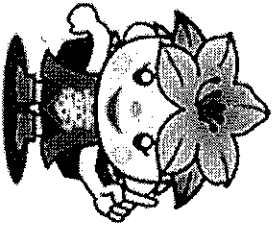
評価の目安と結果について

評価の目安	評価結果 (全49項目)
◎ 十分達成できたか、大きな成果が見られたもの	0
○ おおむね達成できたもの	48
△ 一部のみ達成できたもの	1
× 達成できなかったか、全く取り組みなかったもの	0



意見・助言をいただいた学識経験者

大阪教育大学 教職教育研究センター 特任教授 鳥 善信 氏(専門：学校教育分野)
関西大学 文学部 教育文化専修教授 赤尾 勝巳 氏(専門：社会教育分野)



【守口市教育委員会の点検・評価に関する報告書】
及び「概要版」に関する問合せ先】

守口市教育委員会 管理部 総務課 総務施策係
TEL：06-6995-3152 FAX：06-6995-2505

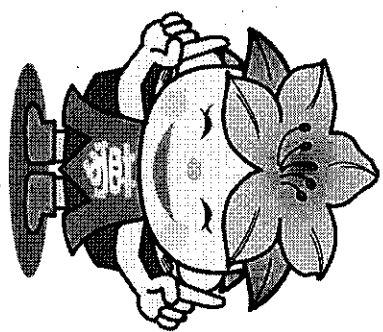
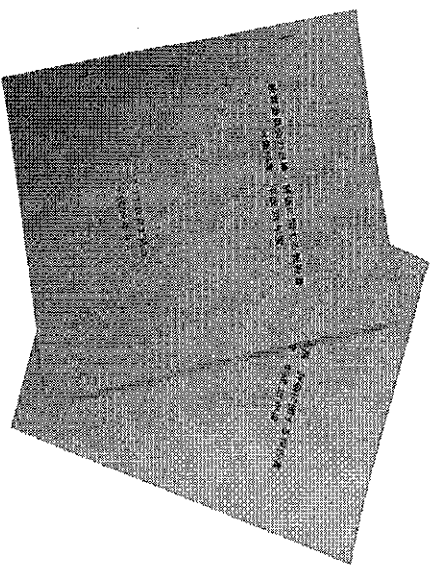
本市教育の5つの基本方針をもとに設定されている重点項目ごとに、学識経験者からの助言を参考に教育委員会が全49項目について評価を行っています。

基本方針1 学力を伸ばす ～一人ひとりの学力の向上と個性・創造性の伸長～

重点項目 1	学ぶ意欲の向上	
1	学力向上に向けた取組み	○
2	学習意欲を高める授業づくり	○
3	授業の工夫・改善	○
4	指導方法の工夫・改善	○
5	中学校夜間学級の充実	○
重点項目 2	言語活動の充実と言語力の育成	
6	言語活動の充実と言語力の育成	○
7	読書週間の定着及び読書に親しむための環境整備	○
8	英語でコミュニケーションを図ることができる児童・生徒の育成	○
重点項目 3	自学自習力の育成	
9	自学自習力の育成	○
10	生活習慣・学習習慣の改善	○
重点項目 4	支援教育の充実	
11	校内支援体制の確立	○
12	効果的な支援を展開できる教職員の資質向上	○
13	効果的な指導の推進	○
重点項目 5	幼児教育の充実	
14	幼・小・中連携の推進	○
15	幼稚園教諭の指導力向上	○

＜学識経験者の意見・助言（抜粋）＞
 ◇新学習指導要領では、学校教育の中心課題とされてきた「学力」について、「知・徳・体」の三要素から、「①何を理解しているか、何ができるかという知識や技能、②理解したことをどう使うかという課題解決力や人間性、③どのような社会世界と関わりよりよい人生をつくるかという学びに向かう力や人間性」という新たな3要素として示された。つまり「知識理解力」、「問題解決力」、「社会性や人間性」自己形成力の3要素がこれからの学力観として整理された。各学校においては、教科学習はもとより学校活動や学校行事などあらゆる教育活動を通じ学力向上が求められる。教育委員会はこれらについてわかりやすく学校に伝え、その具体化を支援することが求められる。特に授業改善については、各学校において学力向上の具体的な目標設定と達成状況を点検できる指標づくりが進むよう、教育委員会の学校新機能を高められるよう期待したい。

◇子どもたちの学びが今、よりアクティブなものになってきているという観点から、学校図書館を活用した教育を期待したい。また、学校図書館だけでなく、学社連携という観点から公共図書館と連携し、子どもたちの学ぶ環境をよりよいものにしてもらいたい。

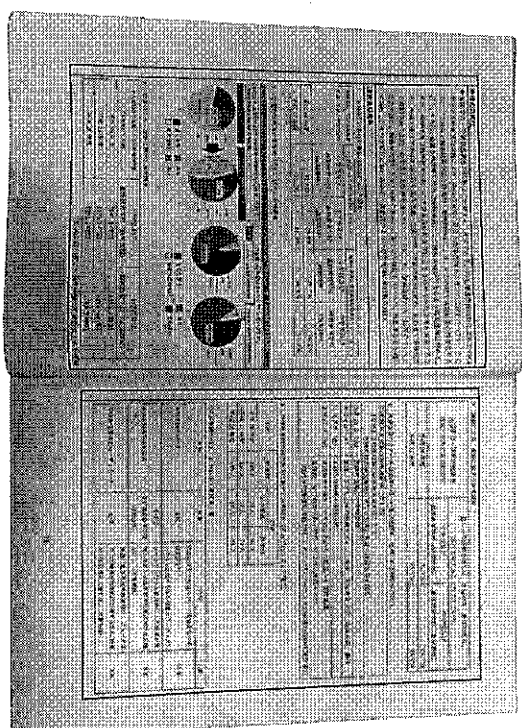


基本方針2 心を育てる ～人権を尊重し、豊かな人間性と社会性の育成～

重点項目 6	人権教育の充実	
16	人権意識の醸成と教職員の指導力の向上	○
17	在日外国人教育の推進	○
18	人権侵害事象とセクシュアル・ハラスメントの防止	○
19	児童虐待への対応	○
重点項目 7	道徳教育の充実	
20	道徳教育の推進	○
21	学校・家庭・地域との連携等の充実	○
22	環境教育、郷土の伝統・文化に関する教育の推進	○
重点項目 8	生徒指導の充実	
23	不登校対策の推進	△
24	いじめの未然防止・早期発見	○
25	児童会・生徒会等の活性化	○
26	生徒指導体制の充実	○
重点項目 9	キャリア教育の充実	
27	キャリア教育の充実	○

＜学識経験者の意見・助言（抜粋）＞
 ◇いじめの問題について、全国的に厳しい事案も増加傾向にある。情報共有の不足や、若くは先生方のいじめの認識がまだ課題がある。あるか分からないという危機意識が重要な部分もある。いつ重篤な事案が起るか分からないという考え方が多いが、起きたくないからという対応が必要である。そういった学校・学級づくりができれば、仮にいじめに発展しなくても軽微なうちに解決できると考える。

◇道徳教育については、従来の「徳目主義」による閉じられた道徳教育ではなく、読み物の解釈の多様性に関わられた道徳教育であるべきである。環境教育については、ユネスコが「持続可能な開発のための教育」(Education for Sustainable Development)の推進拠点として、いくつもの学校をユネスコスクールに指定している。守口市でも、どこかの学校がユネスコスクールとなって環境教育に取り組んでいくことが望ましい。また、人権教育と道徳教育・環境教育・キャリア教育をつなげるものとして、「市民性教育」(Citizenship Education)の構築を行うことが望ましい。



基本方針3 命を守る ～たくましく生きる健康と体力づくり～

重点項目 10	健康・体力づくりの充実	
28	体力・運動の力、運動習慣の向上	○
29	食育の推進	○
30	感染症等の予防・対応の確立	○
重点項目 11	安全・安心な環境づくりの推進	
31	学校の危機管理体制の充実	○
32	学校の安全管理体制の確立	○

＜学識経験者の意見・助言（抜粋）＞
 ◇健康の保持増進という観点から、バランスのよい豊かな食生活を自分自身で作りに上げていくという力をつけることは、今日的に非常に大事になってきている。それをしっかりと支える栄養教諭の役割は、とても大きいことから、その観点からの指導を充実させる必要がある。

◇学校の危機状況は益々多様化している。防災訓練等を含む従来型のものに加え、今日の危機状況に対しての対応も求められているため、適切な情報提供を行い、しっかりと対応できるように注意喚起をする必要がある。

基本方針4 学校力を高める ～明確なビジョンを共有した学校経営と教職員の資質向上～

重点項目 12	学校経営の改善	
33	校園長の指導力の向上	○
34	家庭・地域との連携	○
35	学校の組織力の向上	○
36	小中一貫教育の推進	○
37	学校事務の効率化	○
38	国旗・国歌の指導	○
39	多様な人材の活用	○
重点項目 13	教職員の資質向上・研修の充実	
40	法令の遵守と教職員の資質の向上	○
41	教職員の指導力の向上	○
42	教職員研修の充実	○
重点項目 14	教育環境の充実	
43	義務教育学校さつき学園の開校	○
44	統合校の開校に向けた取組みの推進	○
45	小規模校の規模適正化に向けた学校統合	○

＜学識経験者の意見・助言（抜粋）＞

◇教育全体の改革が急速に進んでいる。この観点から、学校力を高めるという校内努力を支える校長やスクールのリーダーの育成が必要である。また、このような取組みを先取りし、守口市の教員育成方針に組み込むことが、学校への適切なサポートにつながると思われる。

◇コミュニケーションの導入については、新しい学校の在り方について十分に研究・検討を行った上で、守口市の実情に合わせて導入する必要がある。

重点項目 15 社会教育の振興

46	子ども読書活動の推進を含めた学習機会の提供	<input type="radio"/>
47	青少年健全育成活動の支援	<input type="radio"/>
48	文化・芸術活動の支援	<input type="radio"/>
49	文化財の保存と活用	<input type="radio"/>

＜学識経験者の意見・助言（抜粋）＞

◇社会教育は今大きな転換期を迎えている。今後、社会教育が何をやっていかないといけないかを考える必要がある。そこで、こどもの支援をどのように行っていくか、学校教育だけでなく地域でどのような支援を行えるか、社会教育の側から考える必要がある。学社連携という言葉があるが、学校の中と外、両面から子どもたちの体験をより豊かにできるようなイベントや事業を行っていただきたい。

◇子どもたちの問題の背景には、家庭の経済状況が関わっている。その場合、各家庭にどのくらい踏み込めるかは課題があるが、福祉部局等と連携しながら、社会教育の側からどのように家庭の教育力を高めていくかを考えておく必要がある。これからの社会教育の在り方として、子どもの支援と家庭教育の支援が大きな役割であると考えられる。

報告書全体に関する学識経験者の意見・助言（抜粋）

◇平成 32 年度を当面の節目とする、学校教育の内容と方法、学校の在り方、地域と学校の在り方、教員育成の 4 分野において国により大きな改革の内容が示され、現在その具体化が進行しており、それぞれについて具体的な対応が求められている。とりわけ喫緊の課題として、学習指導要領の改定に伴うカリキュラムと授業の大きな改革に各学校が適切に対応することが求められている。今後そういった変化に対応し、教育委員会としての確な方向性を打ち出し、わかりやすく情報提供していくとともに、指導・助言など学校支援の機能を高めていくことが求められる。本報告書全体として、この観点からの問題意識はやや希薄であることを指摘するとともに、次年度以降の取り組みに期待したい。

◇守口市では、小中一貫教育を縦軸に、子どもの育ちを支えるコミュニティを横軸に、意欲的に教育が展開されていることを窺うことができた。現状では、守口市の教育は、おおむね良好に推移していると言える。今後のさらなる展開に期待したいと思う。

詳細は「守口市教育委員会の点検・評価に関する報告書」をご覧ください。

「守口市教育委員会の点検・評価に関する報告書」は、各コミュニケーションター・生涯学習情報センター及び文化センターに設置しています。

また、市ホームページにも掲載しています。

(<http://www.city.moriguchi.osaka.jp/>)

